

2015年
(平成27年)
2月発行
第9号

宝同協だより

めぼ 芽生え



編集発行：宝塚市人権・同和教育協議会

〒665-8665 宝塚市東洋町1番1号(宝塚市教育委員会事務局 学校教育課内) TEL:0797-77-2040/FAX:0797-71-1891

2014(平成26)年度 人権・同和問題啓発作品入賞者のお知らせ

【ポスターの部】

○ 最優秀賞 (3点)



武内 愛琉 (山手台小 3年)



谷原 希南 (安倉北小 6年)



北崎 葵 (長尾中 2年)

○ 優秀賞 (6点)

辻野 大樹 (小浜小 1年)・田中 結衣 (丸橋小 3年)・松野 羽奈 (美座小 5年)
岩田 璃々 (丸橋小 6年)・山田 若草 (安倉中 2年)・宮崎 愛実 (高司中 3年)

【標語の部】

○ 最優秀賞 (4点)

平松 史帆 (長尾台小 3年)
安藤 千春 (長尾台小 6年)
河野 礼奈 (長尾中 2年)
足立 忠男 (市民)

「教室に やさしさいっぱい つめこもう」
「いけないよ 言える勇気と 聞く勇気」
「見ないふり している自分も いじめてる」
「掛けてます『心暖かくする言葉』 掛けません『心冷たくする言葉』」

○ 優秀賞 (8点)

松永 剛 (逆瀬台小 1年)・岸本 空 (光明小 3年)・中根 颯汰 (美座小 4年)
三木 夏奈絵 (すみれが丘小 4年)・川崎 澄珠 (長尾中 1年)・白井 景大 (山手台中 2年)
西園 祐子 (市民)・高田 仁美 (市民)

【作文の部】

○ 最優秀賞 (4点)

富田 大翔 (安倉北小 3年) 「何色が好きですか」
笠井 心結 (美座小 6年) 「七文字のきせき」
山橋 潤己 (安倉中 1年) 「障害者の家族として」
竜口 七彩 (雲雀丘学園高 1年) 「出たかった卒業式」

○ 優秀賞 (7点)

三輪 帆花 (宝塚小 2年)・今下 航輔 (西谷小 3年)・杉田 涉 (宝塚第一小 6年)
松本 健汰 (小浜小 6年)・木村 和奏 (光が丘中 1年)・米田 恵瑠 (安倉中 3年)
宮本 蒼万 (雲雀丘学園高 1年)

【写真の部】

○ 優秀賞 (1点) 綿村 蒼 (宝梅中 2年) 「ねえ いこう」



※ 最優秀賞・優秀賞入賞者のみを掲載しています。

※ 最優秀賞・優秀賞・佳作入賞者は宝塚市のホームページでもご覧いただけます。

<http://www.city.takarazuka.hyogo.jp>

ホーム > 教育・子ども・人権 > 人権・平和 > 人権 > 宝塚市人権・同和問題啓発入賞作品

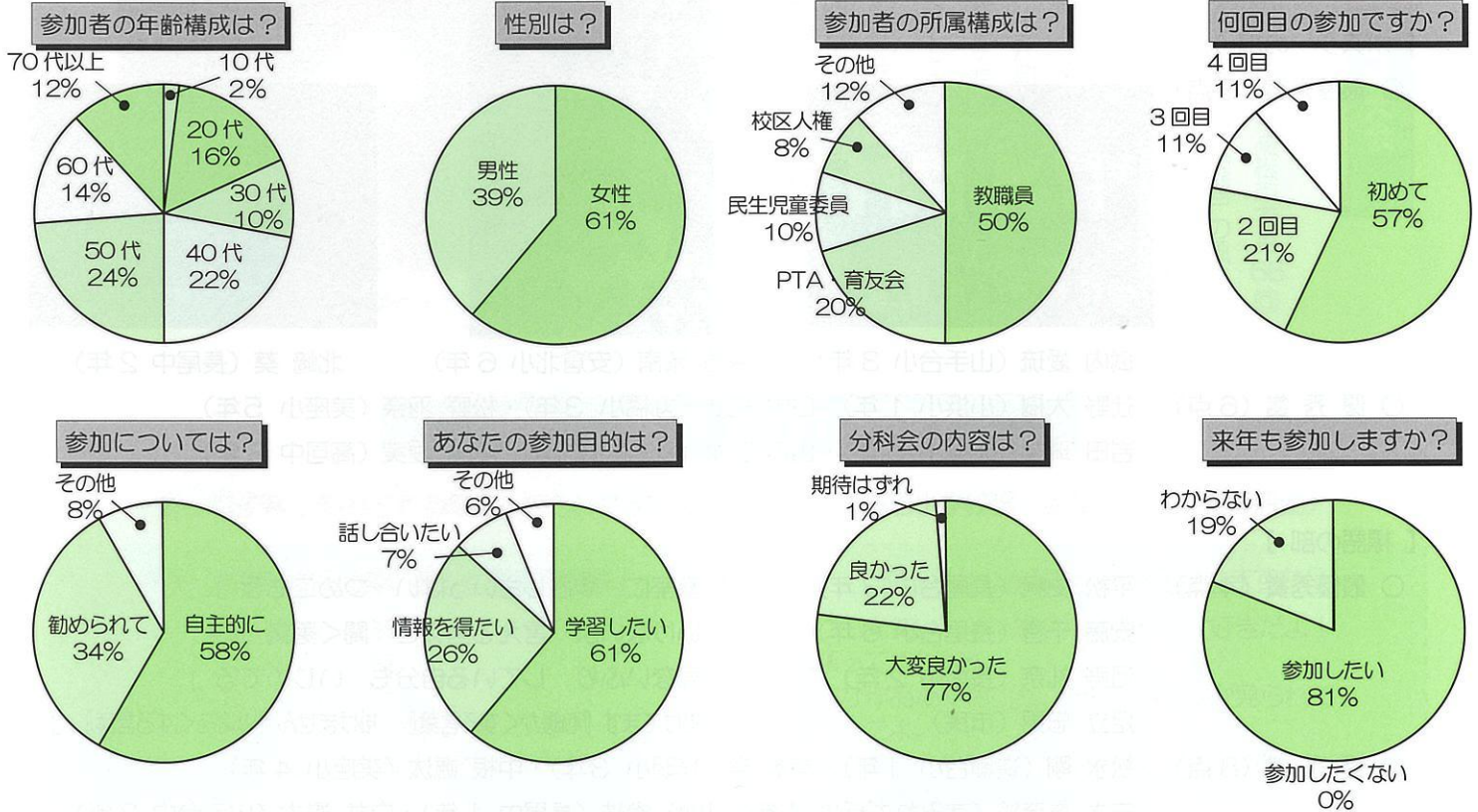
第4回 宝同協研究大会「人権交流学びのつどい」に250名が参加

1月24日(土)に開催しました研究大会は、過去最多の250名の参加があり、多くの成果を得ながら終えることができました。

オープニングではギターアンサンブル「フェリーチェ」のみなさんが、心地よい音色のギター演奏を聴かせてくれました。

7つの分科会では、それぞれの報告者から貴重な報告を聞き、その後、熱心な話し合いと交流がなされました。

参加者のアンケート結果と感想を紹介します。(アンケート回答者：166名)



参加者の感想(アンケートから抜粋)

- ギターの演奏を聞かせていただいた「フェリーチェ」のみなさん、ありがとうございました。シニアの方々がギターを通じて楽しく練習や交流をされていることにとても元気づけられました。(70歳代)
- 実際の経験を聞かせて頂き、とても有意義でした。不登校になりそうな子どもがいるので、今後の心構えを知ることができ、とてもありがたかったです。(第1分科会「子どもの人権について考える」40歳代)
- 一人ひとりが差別をストップさせること、それから「おかしいやん」と声を上げられる人を時間はかかっても、見逃すことなく取り組んでいきたいと思います。(第2分科会「部落差別について考える」50歳代)
- 障がいがあるから生きにくいなど「~だから」ではなく、障がいがあったからこそという「~だからこそ」という前向きな考え方で生きていることがとてもステキです。(第3分科会「障がいがある人と共に」20歳代)
- 学校で習ったり、教えたりする歴史とは違い、生の歴史を生きてきた人々の声をもっと聞いておくべきだったと思いました。正しい歴史認識を学習していきます。(第4分科会「在日外国人の人権を考える」50歳代)
- 「悩み続けることが大事」と報告者が語っておられましたが、不登校になって自殺まで考え傷付いた経過をふまえて出てきた言葉だと思いました。すごい力だと思います。(第5分科会「働くこと、学ぶこと」60歳代)
- セクシュアル・マイノリティの方の苦悩について学ぶことができました。学校でも地域社会でも、誰もがありのままにいられる生きやすい社会であってほしいと思いました。(第6分科会「さまざまな性を受け入れる」40歳代)
- 高校生が発表者となって交流できたことは、とても楽しく有意義でした。若者を中心に多世代間の考え、意見が聞けてとても良かったです。高校生ガンバレ！(第7分科会「インターネットにおける人権侵害」60歳代)

連載 夢と希望はいつか

◎ 人権文化の薫る街

○ 登校する子どもの安全を願って、声掛けをしている人が、あちこちに見かけられるようになりました。

○ 収集日でないゴミを出そうとした人に、「そっか」その「いい、明日ですよ」と気軽に声を掛けられるようになりました。

○ タバコを吸っている未成年を見つけたら、「あなたの健康、自分から捨てなさい」と、言えるようになりました。

○ 井戸端会議で他人の悪口を聞いたら、その場で「悪口はやめませんか」と、明るく言い合える雰囲気になりました。

○ 他人のことを差別する人がいたら、「今度はあなたが軽蔑されますよ」と、はっきり言えるようになりました。

○ 子どもを叩いている親を見かけたら、「ダメー。その手で自分の心を叩きなさい」と諭せる人がいるようになりました。

○ 子どもが学ぶ学校や先生をけなさず、一緒に子どもを育てようと思える空気がつくられていきました。

○ あちこちから、子どもたちの元気な遊び声が聞こえてくる公園や広場のあるようになりました。

○ 男と女とか、色が黒いとか白いとか、障がいがあるとかないとか、どんな家に住んでいるとか、比べ合わないようになりました。

○ 若いも若きも、みんなが自由に参加して楽しめる行事が、あれこれと催される地域です。

○ 突然、何かの災害が起きても、共助の精神が当然のようになっている地域です。

これらのことが、あちこちで感じられたり、見られたりする、そんな街が「人権文化の薫る街」なのです。その薫りは街の隅々まで薫っているのです。そこに住む人々は安心して暮らせるのです。

【和久】

我がまち宝塚の「人権」を紹介

障がい者の地域活動支援センター『アイエルセンター』の紹介

「アイエルセンター」は2012年から、学校を訪問し、福祉教育を行っています。そのきっかけは、当事者のいない教育では何も伝わらない、同じ地域に住んでいる障がい者の事を知ってほしい、障がい者との出会いから学べることはたくさんあるということでした。そして宝塚市社会福祉協議会の職員と活動が始まりました。

今回は、11月20日（木）宝塚市立丸橋小学校4年生と行う車椅子体験学習を取材しました。今年、5校目の訪問です。この日は保護者の協力を得て、90名の子ども達とのふれあいを、「車椅子体験」を行いました。障がいのある方は、5人が参加され、初めに、自己紹介をしました。何歳からどんな病気で、どんな障がいがあるかなど、お話しされたあと、子どもたちからのたくさん質問に答えました。その中から一部を紹介します。

A.Q. 車いすの重さはどのくらいですか？
A. 手動は10kg〜20kgくらいで、電動は70kg〜100kgくらいです。

A.Q. 車いすに乗っている人は何歳ですか？
A. 当センターでは10代の方からいます。今日は20代から50代の方に来てもらいました。

A.Q. 車いすのまま乗れる乗り物はありますか？
A. 飛行機・船・電車など全て乗れます。

A.Q. 料理はしますか？
A. 料理はしますか？
手にはまひがある方はヘルパーさんがしてくれませんが、全盲の方も料理します。

A.Q. 階段はどうするのですか？
A. 基本的には無理なので、エレベーターを使います。何人か集まって持ち上げてもらうこともあります。



A.Q. 車いすはいつごろからありますか？
A. 江戸時代の末期からです。
お話のあとは車椅子体験をしました。子どもたちの感想からその様子をお伝えします。

☆最初はどきどきしたけど、あとから障がい者の方がこんな可愛い思いをしているんだなと思いました。自分がおしているときも責任感を感じました。

☆車いす体験でおす人がむずかしくて、下りのときとても重くてむずかしかったです。車いすにのった時は、ちよつとこわかったです。上りがこわかったです。さいご無事についてほつとしました。

☆車いすに乗っている人のこわさが知れてよかったです。これからは車いすに乗っている人を見かけたら、何か手伝えたらいいなと思いました。

子どもたちは、乗せている子のことを考えながら介助することの大切さ、ちよつとした移動が車椅子の方にとって大変なことなんだ、ということを学びました。

最後に、アイエルセンターの皆さんから「障がいがあっても、なくても何か出来る！自分探しをしている、できない部分を力パシしながらみんな頑張っています」とメッセージをいただきました。当事者と直接出会える福祉教育を通じて、これからの「人権」を考えずばらしい時間を過ごすことができました。



【梅田・矢田】

全国人権・同和教育研究大会

昨年の12月6日(土)～7日(日)、香川県高松市で第66回全国人権・同和教育研究大会が開催されました。「瀬戸の風にのせて広げられ人権と共生の社会」をテーマに、約1万人の参加者が差別のない社会の実現に向けて理解を深めました。

大会は全国各地で毎年開催しており、香川県での開催は、15年ぶり2回目。高松市、小豆島町、土庄町の1市2町の22会場で、▽人権確立をめざす教育の創造▽進路・学力保障▽人権確立をめざすひとびと・組織のつくり直し▽5つのテーマの分科会やシンポジウムなどをおこないました。

兵庫県からは、洲本市潮連各町内会・炬口住民会の「現代社会における基本的な人権は地域で保障されているのか?」基本的な生活権である生命・財産の安全安心をいかにして守るか」と、たつの市立平田小学校の「部落問題を自らの課題として考え、解消に向けて行動できる児童の育成」体験学習を取り入れ、心をゆたぶる学習活動の創造」の報告がありました。2日間どの分科会においても熱心な討議が行われました。次回の開催は、11月21日(土)～22日(日)に、長野県長野市で行われます。ぜひ、ご参加ください。



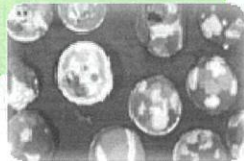
12/6 高松市総合体育館での全体会の様子

子育て!! 「ホップ ステップ ジャンプ」

＝楽しむ子育てをめざすお母さんたちにお聞きしました＝ (高司小学校区 就学前子育て支援活動)

今日、わが子が「可愛いな」と思えた瞬間!

- *褒められて照れ笑った顔
- *粘土工作に集中していた時
- *いつになく甘えてきたとき
- *おしゃべりしながら工作していた姿
- *昼食時、口にクリームいっぴいつけていた時
- *一所懸命粘土をこねている姿
- *「見て、見て」って言ってきた時
- *泣かずに工作していた時
- *私のボケにつっ込んできた時



♡ 小物入れのつもりが、いつしかオブジェに・・・巨匠がいっぴいだ!

「アンパンマン 一周したら のっぺらぼう」粘土 こね子 作

帰ったらどんな褒め言葉をかけますか?

- *いつも元気いっぱい遊んでいるね。大好きだよ!
- *頑張って作れたね。
- *素敵な作品ができたね。楽しそうな顔が見られて良かったよ。
- *赤ちゃんがいるから我慢したり、待ってくれてたり「ありがとう」
- *粘土でんこ盛りできたね。
- *いつも元気でありがとう。
- *今日も頑張ったね～。
- *泣かずにできてえらかったね!
- *粘土をみんなに分けてあげられたね。
- *頑張って上手にできたね。〈抱っこ〉
- *上手に作れたね。
- *頑張ったね。いいものができたね。

編集後記

人権・同和教育啓発作品には、ポスタ179点 標語249点 作文169点 写真6点の応募があり、どの作品も力作ばかりでした。

「人権交流学びのつどい」は、回を重ねることに参加者も増え、どの分科会でも内容の深い話し合いができました。

次号は節目の第10号となります。これからも、皆さんといっしょに「芽生え」な「人権」について考えていく「芽生え」を発行していきますので、お楽しみください。皆さんの投稿もお待ちしております。



【津国】

宝同協だより「芽生え」編集委員

- 津国 千恵子 (編集委員長)・山口 卓・梅田 美佐子
- 寺田 文子・名見耶 美絵・芦田 真也・池澤 径子
- 山根 泰・大塚 亜紀・和久 有彦・矢田 隆宏・山本 悠